

## 講演要旨纏め

演 題 界面活性剤の動向について

講 師 日本界面活性剤工業会 専務理事 谷口五十槻氏

### (1) 講演内容概要 : 講演の骨子は以下のとおり

- (1.0) 日本界面活性剤工業会の歴史と規模
- (1.1) 統計的に見た界面活性剤業界の動向
  - (1.1.1) 日本における界面活性剤の成長の軌跡
  - (1.1.2) 日本製造産業における界面活性剤産業の位置付け
  - (1.1.3) 直近の界面活性剤の生産・出荷状況など
  - (1.1.4) 国別調整潤滑油 (HS code 3403) 輸入状況
- (1.2) 環境問題から見た界面活性剤の技術動向
  - (1.2.1) NPE・OPE の環境ホルモン問題対策
  - (1.2.2) NPE 代替のアプローチ
- (1.3) 界面活性剤トピックス
  - (1.3.1) 界面活性剤による空調効率化
  - (1.3.2) 亜臨界水を利用した AGE の合成
  - (1.3.3) 粗グリセリンから天然界面活性剤
- (1.4) マテリアルフローコスト会計(MFCA)セミナーの紹介

### (2) 感想

(1.1)では、豊富でよく整理されたデータを使用して、界面活性剤の発展の様、業界を取り巻く位置付けなどの説明があり、大変よく理解できた。特に、日本の界面活性剤は欧米のそれとともに技術的にも経済的にも世界をリードしているものと誤解していたが、ロシア・マレーシアなどの中国への輸出量が日本と同等若しくはそれ以上であることは意外であった。界面活性剤を利用して金属加工油を製造している我々への警鐘であると認識した。

(1.2)では、環境ホルモン問題を取り上げ、内分泌攪乱剤として問題視されている NPE につき、その人体への影響メカニズムの医学的説明や、その代替品開発の技術的説明等が詳しくなされ、従来なんとなく理解したつもりであったことを完全に理解できるようになった。これで、すべての物質のより良い選択ができるとは言わないが、今後の同様な動向にはより適切な反応ができるようになるものと期待している。

(1.3)では、特に個人的に、亜臨界水を利用した AGE の合成の話題に大いに興味をもった。本技術のいくつかの応用例は諸所で紹介されてはいたが、界面活性剤業界での研究に及んでいる事は驚異であった。こうした技術で、安価に純物質としての界面活性剤が製造されるようになることを期待する。

業界の解説としても、技術的解説としても、興味深い事項を非常に分かり易く説明して頂いた。